しずおか自治連だより

葵区 駿河区 清水区

発行　静岡市自治会連合会／編集　広報編集委員会
2011年（平成23年）10月1日発行／発行部数　259,100部

－第６号－

静岡市自治会連合会事務局
住所：〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号静岡市役所新館15階　TEL：054-221-1568　FAX：054-221-1568　ホームページ：http://jichikai.d2-cms/jp

しずおか自治連だよりも第6号を発行するまでになりました。今回は巻頭に田辺信宏市長から市民の皆様へメッセージを寄せていただきました。

本市は、虫の眼から見る　「災害に強く、安心安全に人が暮らせるまち」、鳥の眼から見る「求心力が強く、世界中から人の集まるまち」、この2つの視点から見据えた都市ビジョンの下、「世界に輝く『静岡』の創造」を目指しています。その実現に向け、現地現場主義、スピード重視、そして積極的な情報発信の3つの基本方針を掲げ、市民の皆さんと身近に対話し、官民協働の市政運営に心がけ、仕事や子育てに懸命に取り組む皆さんを応援していきます。そして、皆さんと一緒にこのまちを磨き上げ、静岡を「希望の岡」にしていきましょう。

田辺信宏市長

市内の様々な地域で伝統文化、芸能、まつり等が地元の自治会、団体等により、伝承され大事に守られています。このコーナーでは伝統行事を継承して、地域の文化を育てている2つの事例を紹介します。

地域で受け継ぎ、育てる草薙大龍勢まつり

戦国時代の1543年、初めて火縄銃と黒色火薬が伝来し、諸種の工夫がなされ、なかでも城攻め用の「火矢」から転じて、火薬を利用した「のろし」が考案され「昼のろし」は煙や布きれ又は旗などで、「夜のろし」は音や光で合図しあったといわれています。

これらの情景から昼のろしは「龍勢」と称し、夜のろしは「流星」と呼ぶようになりました。当地には、両のろしの技法が口秘伝のまま受け継がれ、更に工夫改良が加えられ元禄年間からは、草薙神社の秋季例祭日に、五穀豊穣、家内安全、商売繁栄等を祈願して、龍勢打ち上げが行われてきました。本年は、9月23日（秋分の日）に打ち上げが行われます。

点火と上昇

地域で大切に伝承している神楽

安倍川流域、大井川流域、瀬戸川流域の山間部には総称して、「駿河神楽」と呼ばれる神楽が受け継がれています。

市内では、県や市の無形民俗文化財に指定されている清沢神楽、有東木神楽、梅ヶ島新田神楽をはじめとして、井川、諸子沢、横沢なども神楽が盛んな地域です。それぞれ地元の氏神社の祭礼などで披露しており、まさに山間地を代表する民族芸能と言えます。

また、駿河神楽を伝承している保存団体が一堂に会し、自慢の舞を披露する「夜っぴとい神楽」も毎年行われています。

太刀や扇などの採り物を持つ舞

鬼、恵比寿、大黒などの面をつける舞

地震など自然災害に対する防災対策を万全に!

今年3月11日に起きた東日本大震災により、東北地方、関東地方が未曾有の被害を受けました。私たち静岡市民も東海地震を想定した防災対策を万全にして何が起きても手が打てるように備えておくことが大切です。12月の自主防災訓練では皆で力を合わせて対応したいものです。そこで、今回は葵区・清水区における防災訓練の実施状況や、熱心に防災体制を研究し年間を通して堅実な運営を図っている地区を紹介します。

また、最近、駿河区で開催した研修会「東日本大震災の状況と東海地震への備え」の内容もお知らせします。

参集状況

葵区では中学生の見た城北学区の防災訓練の様子

城北学区では毎年12月に学区の防災訓練を実施しています。各町内会と観山・安東中学、また城北小学校・行政・県立総合病院・地元開業医・看護協会・消防団等多くの関係諸団体の皆様のご理解とご協力により多数の参加者と意義ある訓練を重ねています。

内容は、町内会単位のテントの設営と避難者の受付、トリアージ、負傷者の搬送を行う行動体験、体育館での避難所生活体験等を主体に実施しています。

中学生が取材した「防災訓練ウォッチング」!

地元医師団によるトリアージ訓練

トリアージ訓練

城北学区のトリアージ訓練ではお年寄りからお母さんに連れられた小さい子どもまで、幅広い年代の人たちが参加していましたが、赤・黄・緑・黒の札を付ける人と付けられる人を交代して、全員が順番に訓練を受けていました。

トリアージとは?

同時に多数の負傷者が出る災害時では、できるだけ多くの命を救うために誰を治療するのか、誰を先に救護病院に搬送するのか決めなければなりません。救護所や救護病院の医師が、病状の重さを判断し、優先順位を決めることを言います。

消火訓練

運動場に用意されたオレンジ色の的に向けて、消火器を持った人たちが勢いよく消火剤を掛けていました。また、手渡しでバケツを運ぶ「バケツリレー」もやっていました。大人だけでなく、私たち中学生や高校生も協力すれば楽にできるし、もっと早く運べるのではないかと思いました。

消防団による消火訓練

炊き出し訓練

ここでは、災害が起きたときに配る食べ物を作っていました。今回は「おにぎり」で、釜で何度もお米を炊いて作っていました。

訓練に参加した私たちと同じ中学生は「思ったより大変だったけど楽しかった。」と語っていました。

炊き出し訓練

取材を終えて

今回の取材を通して、防災訓練の大切さを改めて感じました。実際に地震が起きたら、たぶんパニックになって何もできなくなると思います。年に1回でもこのような訓練を地域全体で行い、防災について真剣になる必要があります。私たち中学生も地域の一人として働き、皆様のお役に立ちたいと思います。

如何に備える東海地震 岡地区防災について

— 清水区岡地区 —

防災訓練参集状況

岡地区連合自主防災会は、16町の自主防災会の集合体で構成されています。連合自治会の指示、指導による防災組織の構成及び任務分担を行い、組織には、防災指導員はもとより、アマチュア無線委員も加入し活動しています。

年度始めに年間事業計画を作成し、応急救護講習会・防災講座・講演会・研修会・防災関係の懇談会等開催しています。

定例会は毎月開催し、各町内における防災活動・計画・問題点等の意見交換と検討を行ないます。地区防災資機材の点検・整備は当番制にて毎月実施しております。

平成22年度の岡地区防災訓練は、岡小学校・清水第二中学校運動場・体育館を使用し、訓練内容は消火訓練をはじめ11項目の訓練を実施しました。参加者も二千人を超す参加者があり、特に小・中学生の参加が多かった事は、事前に地区自主防災役員が学校体育館に出向き参加を訴えた事が、学校の理解と協力を得られた結果と考えます。

今後、東日本大震災の教訓をもとに、組織の充実と地域住民に対し東海地震に備える防災対策と意識の高揚に努めて参ります。

津波に備える

— 清水区駒越地区 —

東海大地震や東海・東南海・南海の三連動地震が、いつ発生してもおかしくないと言われています。
私たち駒越地区は、海抜5m以下の平地が3分の2を占める中で駿河湾に面し、折戸湾の末端が近接して津波の脅威にさらされています。

住民の避難場所が駒越小学校になっていますが、海抜1.5mで折戸湾に近く、津波の避難場所としては不適切な所です。

静岡市は、5月の緊急避難訓練時、「5分以内で500m以内の避難場所」と設定しましたが、避難ビルを含めこうした場所がほとんど皆無に近いのが現状です。

駒越地区連合自治会は、4月に10名のメンバーによる「防災プロジェクトチーム」を立ち上げ、連合自主防災会と連携を強化し、避難場所の確保を最優先に、9月末までに適切な対応策をまとめるべく精力的に取り組んでいます。

先進防災施設視察の
プロジェクトチームメンバー

避難場所探しの
プロジェクトチーム

向こう三軒両隣防災チーム

— 清水区折戸五区 —

この防災チームは平成10年に組織され、組織は会長→防災リーダー→ブロック長→一般住民で、防災チームがスタッフとして配置されます。

防災リーダーの正副に現・前会長が2年間義務付けられ、ブロック長は向こう3軒両隣（5～6世帯）に1名を置き、防災チームは現在18名で任期はなく、消防士・看護師も参加しています。毎月1回の定例会を開催し、井戸マップ、危険箇所マップ情報及び行動指示紙の発行、防災機器の点検などの活動を行っています。

5月11日の津波避難訓練では各ブロック長の指示・誘導により全世帯が500m以内で、5分以内の避難場所に計画通り避難することが出来ました。

消火訓練

研修会

東日本大震災の状況と東海地震への備え

東日本大震災は、甚大な被害をもたらすとともに、私たちに先人の知恵や人のきずなの大切さを思い出させてくれました。8月1日深夜、研修会を前に駿河湾を震源とする震度5弱の地震に「ついに東海地震か!」と緊張感が走りました。

研修会は、9月と12月の防災の日の、自主防災訓練の参考にするため開催しました。駿河区防災担当職員が現地を訪れ、被害状況、避難所運営、住民の様子を伝えるとともに、地域リーダーへのアンケートを基に東海地震への備えについて話しました。また、防災用品展示を同時開催しました。

東日本大震災の状況（4月26日現在）

3月11日 14:46頃 発生／M9.0／三陸沖／深さ約24km

死因 岩手、宮城、福島の92.5%は溺死
（関東大震災は87%が火災によるもの
阪神・淡路大震災は83%が建物等の倒壊による）

「倒壊によるほこりを吸い込んでの窒息が多数」と聞き驚いた。

東日本大震災の死者の65%が60歳以上と高かった。
高齢者や要援護者の避難の対策が課題である。

ライフライン 発生から10日後のライフラインの復旧
水道／約50%　ガス／約10%　電気／約95%
被災した下水道（処理施設）は、6月現在120のうち69が未復旧、水道は復旧しているので排水は未処理のまま川や海へ流出。

避難所運営
高砂市民センター浅見館長談

当初指定避難所ではなかったが、「**みなさんのことは私の命にかえて守って見せる**」と宣言、避難者を受け入れた。館長自身が、企業や生協に掛け合って食料を調達し、毛布もホテルに提供してもらった。日頃から構築していた、町内会や企業とのネットワークが活かされた。その後の自立に繋げるため、避難者からリーダーを選出しみんなで避難所運営をした。仕切をしないことで、孤立を防ぎ、具合の悪い人を早期発見できた。

定員350名の会場はほぼ満席

リヤカー。トイレに注目が集まった

東海地震への備え ―地域のリーダーへの事前アンケートより―

津波避難対象地域では、津波が心配との回答が圧倒的だが、駿河区内の各地域の状況を反映して火災や倒壊が怖いとの回答が多く、冷静に自らの地域の課題をとらえていた。

地域の地震被害の想定

駿河区役所から北東にあたる地域は、揺れが大きく液状化、延焼火災危険度レベルが高い。長田地区は、崖地崩壊危険箇所が点在していて、孤立化が心配される。

海岸部は、津波に対する避難誘導が課題であり、学区を超えて避難者の受け入れ態勢を話し合う必要がある。造成地の住宅は切土盛土を確かめる。高齢者を含む避難要援護者を把握するため、地域の交流を密にする。

まず我が家では、家屋の崩壊と家具の転倒の対策が一番です。被災後も自宅で暮らせるように水、食料、連絡手段など確認と準備をしましょう。

気になる津波

仙台平野を襲った津波の状況を踏まえ、静岡市は独自に津波避難地域を見直し、早急に対策を講じます。避難ビルの新規指定や避難塔の建設も検討していきます。また、県は高波対策を含め防潮堤の補強も進めています。

新たに、避難ビルに指定された川原学区のかわはら会館

突然の津波が発生したときに逃げ込むビルです

5月の津波訓練から

川原学区では、海岸に近い避難ビルや避難経路に不安を感じていた。東名高速に避難できるよう要望が多いほか、避難ビルの指定を増やしてほしい。また、同報無線が聞こえにくい、地域内のどこでも聞こえるようにしてほしい。子どもや高齢者などを連れて避難は難しいなどの意見が寄せられた。

駿河区市政出前講座を利用ください。
地震・風水害・土砂災害について
地域に伺います。少人数でも結構です。
今回の研修会の内容について。

問い合わせ
駿河区総務・防災課 防災担当
☎054-287-8683

地域のきずなを深めよう

【明るい駿河区みんなでエコライフプロジェクト】いま、共に生きていくために出来ること
他人を思いやる事、声を掛け合い気遣うこと、ヒトにも環境にも優しい生活を地域で取り組んでみませんか?